

# 国語科

1年

2年

3年

## 区学力調査の分析

○観点別到達割合においてはおおむね目標値に到達しており、標準的な学力を有しているといえる。

- ▼観点別正答率において「話す・聞く能力」が区平均・目標値の両方を下回っている。
- ▼文法では修飾語の理解に課題がある。
- ▼漢字の書き取りの正答率が50%程度にとどまり、また繰り返し練習する意識が低い。

○観点別到達割合が「読む能力」で30ポイント「話す・聞く能力」で19ポイントも伸びており、学力の向上がみられる学年集団である。

- ▼漢字書き取りの正答率が区の平均値がよりも13%低い。
- ▼文法については、文節、単語について理解できておらず、正答率が50%にも満たない。
- ▼作文に関する問題に関して無回答が1割もいる。

○「文学作品の読み取り」「話し合いの内容を聞き取る」問題において目標値を大きく上回っており、他者の考えや心情に思いを巡らせ考える力があるといえる。

- ▼「書く能力」が目標値を大きく下回っており、作文も無回答が2割近くにのぼる。
- ▼「話すこと・聞くこと」以外の領域や観点における達成率が、昨年度に比して減少傾向にある。

## 指導上の課題

- ▼授業中はおおむね意欲的に取り組もうとする一方、課題や話し合い等に集中して取り組んだり指示を正確に聞き取ったりすることに難がある。
- ▼「書く」活動をさせたとき、誤字・脱字や文法的誤りに配慮せずに取り組んでしまう。
- ▼読み取りは得意であるが、読み取った内容を整理してまとめたり活用したりすることは苦手である。

- ▼範囲のある中から漢字テストをしても、正確に書いて覚えなため習得するまでに長時間かかる。
- ▼自分では集中して聞いていると認識しているが、正確な聞き取りができないというギャップがある。
- ▼文章の内容を正確にとらえ、その中から必要な情報を集めることに乏しく、「5W1H」を含めて文が成立するように書けない。

- ▼知識・理解の定着のために家庭学習を積んでいる生徒が少ない。
- ▼授業中の課題や宿題などに対する意欲が低く、集中して取り組めない。
- ▼語彙や漢字・文法の知識が少なく、文章を書いて自分の考えを表現する力に乏しい。また書くことへの意欲も高くない。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

- ☆漢字や文法など、繰り返し努力して知識を身につけようとする生徒
- ☆目的意識を持って聞いたり読んだりして得た情報を、目的・意図に応じて活用し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる生徒
- ☆他者と意見を交換し、相手の意見を受け入れるとともに自分の考えにも活かしていく生徒

- ☆家庭学習の習慣が付き、意欲的に漢字や文法の学習を積み基礎・基本が定着した生徒
- ☆目的意識をもち、自分の力で正確に聞き取ることができる生徒
- ☆指定された字数や課題にそった作文が書け、「書く」ことを嫌がらない生徒

- ☆文章を書くことを通して、自分の考えを筋道立てて表現しようとする生徒
- ☆漢字や文法、語句の学習を地道に積み重ね、言葉を豊富に用いることのできる生徒
- ☆意見交換のなかで相手を理解するとともに自身の考えも深め、それをさまざまな形で表現できる生徒

## そのための手だて・授業の改善

- ☆授業をはじめ朝学習や漢字テスト、作文添削等の機会も活用しながら、知識事項の定着を徹底します。
- ☆読解においては「論理」を徹底して指導するとともに、読み取った内容を自分の問題としてとらえ活用する課題に取り組めます。
- ☆話し合い活動を積極的に取り入れるとともに聞き取りテストも継続的に実施し、聞くことに対する意識を高めていきます。

- ☆漢字の読み・書きのドリル学習、文法問題のステップ学習の推進と地味な家庭学習による学習の積み重ねに取り組めます。
- ☆NIE教育を推進し、新聞記事を読み「字数指定」等の小作文の課題に取り組ませる機会を多く設定し、作文の添削を徹底します。
- ☆小グループでの話し合い活動を取り入れ、自・他の意見交流を行い、論理的思考力を伸ばします。
- ☆聞き取り課題・テストの継続化をします。

- ☆NIE教育や図書館活用教育を推進し、さまざまな形態の文章にふれることで内容を論理的に把握する力を育み、語彙も増やしていきます。
- ☆漢字、文法、語句等の既習内容を朝自習や授業においてドリル学習で復習します。
- ☆批評文、プレゼンテーション資料、キャッチコピー等さまざまな形態の文章を書く活動に取り組み、相手や場面に応じて正確に書いて表現する力を育みます。

# 社会科

1年

2年

3年

区学力調査の分析

◇強み◇  
領域別に観てみると、「我が国の農業や水産業」「我が国の工業生産」などの項目で、目標値を上回っていることがわかる。また、社会的な思考・判断・表現の正答率も目標値を超えている場合が多い。  
◇弱み◇  
資料活用の技能が若干低いように思われる。知識・理解に関する正答率も目標値に達していない項目が若干あるように思われる。

◇強み◇  
領域別に観てみると、「我が国の歴史」についてなどの項目で、目標値を上回っていることがわかる。  
◇弱み◇  
教科の正答率が、基礎・活用ともに区・全国平均を下回っている。資料活用の技能や知識理解を問う問題の正答率が低いように思われる。

◇強み◇  
領域別に観てみると、「世界と比べた日本の地域別特色」などについての項目で、目標値を上回っていることがわかる。  
◇弱み◇  
領域別に観てみると、「日本の地域構成」「日本の諸地域」「近世の日本」(特に江戸時代編)などについての項目で、目標値を下回っていることがわかる。

指導上の課題

◇資料活用の能力をどう高めていくかという授業の工夫が課題である。  
◇基礎・基本的な知識や技能の定着をどう図るかが課題である。  
◇地理的分野を苦手としている生徒が多く確認できる。

◇基礎・基本的な知識や技能の定着が十分されていないことが課題である。同時にそれを活用するための思考力・判断力・表現力にも課題がみられる。  
◇基礎・基本を定着させるために、既習事項の振り返りなどを行うための時間の確保が課題である。

◇知識・理解を定着させるために、早い段階での振り返りや確認テスト等を十分に行っていない。  
◇歴史分野で生徒が苦手意識のある時代や分野を復習をせずにそのままにしている。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

◇社会的事象に興味を持って授業に取り組める生徒。  
◇基礎・基本的な知識・技能を習得するために努力を継続できる生徒。  
◇ノートに書く、先生の説明を聞くなどが主体的に出来る生徒。  
目・耳・手・口・心を使って学習出来る生徒。

◇社会的事象に興味を持ち、主体的に授業に取り組める生徒。  
◇基礎・基本的な知識・技能を身に付けるための努力を惜しまず、継続できる生徒。  
◇ノートに書く、先生の説明を聞くなどが主体的に出来る生徒。

◇学習した内容を、家庭学習を中心に復習をする生徒。  
◇ノートに書く、先生の説明を聞くなどが主体的に出来る生徒。  
◇苦手な範囲を得意な範囲に変えていく生徒。

## そのための手だて・授業の改善

◇授業の導入に工夫を持たせ、授業への関心・意欲を高めます。  
◇発問の仕方などを工夫し、常に様々な事象の原因を追究する姿勢を養います。  
◇視覚教材を効果的に取り入れ、一方的な説明で終わらないように留意します。

◇授業の導入部分を特に工夫し、スムーズに学習内容に興味・関心を持てるような授業を行います。  
◇授業の「ねらい」を明確にし、最後に「まとめ」を行います。わかる授業を推進します。  
◇基礎・基本の定着を図るために、重要な用語を明確にして学習しやすい環境を整えます。  
◇発問を工夫することで、生徒の思考力・表現力を育てます。

◇授業内容に関連付け、時事問題を意識的に取り上げて、様々な方法で生徒が考え、理解できるように工夫します。  
◇入試を意識し、特に既習されている内容を取り上げていく授業を意識的に行います。  
◇授業の導入部分を特に工夫し、スムーズに学習内容に興味・関心を持てるような授業を行います。  
◇授業の「ねらい」を明確にし、最後に「まとめ」を行います。わかる授業を推進します。

# 数学科

1年

2年

3年

区学力調査の分析

◇強み  
・概ね区平均、全国平均を若干上まわっている。特に、整数の性質、グラフの読み取り、面積と体積は目標値をかなり上回っている。  
◇弱み  
・百分率に対する問題に弱い。  
・比例・反比例に対する問題に弱い。

◇強み  
・文字式や1次方程式、比例・反比例など文字を使って表すことはよくできる。  
・数学的な技能の分野の正答率が高い。  
◇弱み  
・基礎的な計算(復習、正負の数)に弱い。  
・数量や図形などについての知識・理解が区平均に比べ若干低い。

◇強み  
・基礎的な内容において、目標値を上まわり、特に計算に関する問題が良くできる。  
・数学的な技能の分野の正答率が高い。  
◇弱み  
・証明について区の平均正答率をかなり下回っている。  
・数学に対する関心・意欲が低い。

指導上の課題

◇数学的な技能はおおむね良好であるが、比例・反比例等の苦手な単元を克服する必要がある。

◇数学的な知識を定着させる。  
・数学的な技能はあるのだが、基礎的な知識が欠けている生徒が多い。  
◇論理的に問題をとらえ、自分の技能を用いて考えようとする姿勢を培う必要がある。

◇数学的な見方・考え方を身に付けさせる。  
・数学的な技能はあるのだが、どの考えを用いたらよいか理解できていない生徒が多い。  
◇論理的に問題をとらえ、自分の技能を用いて考えようとする姿勢を培う必要がある。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

◇問題を考える上で基礎となる、正確に計算する力、正確な知識を身につけた生徒を目指します。  
◇知識に基づいて考える力のある生徒を目指します。

◇数学の知識を定着するための努力を継続していく生徒を育成します。  
◇問題に対して答えを求めることに関心を持ち、課題を克服した際に充実感が持てる生徒を育成します。

◇数学の見方、考え方を養うべく、問題に対する経過を大切にすると生徒を育成します。  
◇問題に対して答えを求めることに関心を持ち、課題を克服した際に充実感が持てる生徒を育成します。

## そのための手だて・授業の改善

◇正確に計算する力をつけるため、毎日の宿題や朝学習などで繰り返し練習させます。  
◇小学校の学習内容を復習、確認しつつ、新しく学習する内容を整理して、理解を深めます。

◇計算問題の反復演習を通じ、やればできるという実感を持たせ、且つ、計算ミスをなくすために見直しをさせます。  
◇発展的な問題に対して、解答に至るまでの考え方を個別に見、個人個人の課題を明確にしてあげることによって授業に対する目標をつくります。

◇証明の問題に対して基礎からの復習を行い、基本的な解答の仕方、考え方を培います。  
◇数学的な見方、考え方を問われる問題に対して、解答に至るまでの考え方を重視し、解答に至らないまでも、それに至る経過に対して評価をし、達成感を味わえるようにします。

# 理科

## 編集中

1年

2年

3年

### 区学力調査の分析

◇強み  
物の燃え方や溶け方、大地のつくりと変化に関する知識理解や技能面への評価が高い。  
◇弱み  
植物のつくりとはたらきや分類などへの知識や科学的な思考・表現力への評価が低い。

◇強み  
火山活動と火成岩の知識、気体の発生と性質・力と圧力・身のまわりの物質とその性質の科学的な思考・表現への評価が高い。  
◇弱み  
植物の分類の知識、物質の状態変化・光と音の性質・地層の重なりなどの科学的な思考・表現への評価が低い。

◇強み  
化学変化と電流の性質における知識理解と実験技能に関する評価が高い  
◇弱み  
動物のからだのつくりとはたらきにおける知識の定着の低さと、単元に限らず、科学的な思考表現への評価が低い

### 指導上の課題

◇知識の定着が短期的であるため、既習事項を活用し、科学的な思考・表現につなげることが困難である。  
◇自然事象への興味関心に偏りがあるので、単元の横のつながりを意識して、学習に取り組みさせる必要がある。

◇自然事象への関心・意欲を高め、学習への取り組みを高める必要がある。  
◇知識の定着が短期的である。  
◇実験観察において、結果やデータを活用・処理し、既習事項から考察につなげることが苦手である。

◇実験観察において、結果やデータから既習事項を用いて考察につなげることが困難である。  
◇知識の定着が短期的であり、他の単元とのかかわりについても意識が低い

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

◇自然事象への関心・意欲を分野に限らず意欲を持って、積極的に学習に取り組む生徒  
◇知識の定着と安定を図り、その知識を活用して思考・表現が行える生徒

◇自然事象への関心・意欲を持ち、積極的に学習に取り組もうとする生徒  
◇知識をしっかりと定着・活用させることができる生徒  
◇実験結果から、既習事項をもとに、考察へつなげることができる生徒

◇知識を定着させ、活用することができる生徒  
◇既習事項を使ってデータや資料をまとめ、考察することができる生徒  
◇他の単元との関わりを意識し、知識を活用できる生徒

## そのための手だて・授業の改善

◇ICTを活用することで関心を持ち、授業に参加できるようにする。  
◇練習問題等のチェック、また技能面でのサポートをTTによって細やかにチェックし、対応していきます。  
◇練習問題での反復練習や小テストの実施により、知識の定着を図ります。

◇ICTの活用・元素カードゲームなどの活用を行い、理科への興味関心を高めます。  
◇小テスト・夏期補習などを充実させ、知識の定着を図ります。  
◇グループでの話し合い活動や、記述問題等を充実させることで、実験結果から、考察へのつながりを練習させます。

◇夏期補習・小テストなどで知識の定着具合をこまめに確認し、フィードバックすることで、学習への意欲を高めます。  
◇他の単元との関わりを意識した授業展開を図ります。  
◇グループでの話し合い活動や記述問題の充実を図り、既習事項から実験結果の分析・考察へのつながりを重視した授業展開を図ります。

# 英語科

1年

2年

3年

区学力調査の分析

◇強み  
1年次に学習した内容の文法を使って、聞き取ったことに対して大まかに英語で答えることができる。  
わからない単語や用法を自分で調べるなど、前向きに学習を続けることが意識づけられている。  
◇弱み  
正しい語順で英文を書くことが苦手である。

◇強み  
絵や資料などヒントを元に、質問に正しく答えることができる。今までに習った単語や、文法事項を用いて、まとまった英文を書くことができる。  
◇弱み  
やや長い文章のリスニング問題では、要点を聞き取れなかった。読解では長文の中で指示語を把握できなかった。

指導上の課題

○話すスピードが速くても内容を掴むことができるが、書くことやまとまった文章を読むことが不十分である。

○一般動詞の過去形など、形が変化するものが多いと文章を書く際に正しく書くことができない。「言えるが書けない」というものが多い。

○リーディングをする際、指示語の内容など、具体的に理解しないまま、自己流で答えてしまう。  
○質問に対する答えを正しいつづりや文法で書くことが苦手である。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

○得意な分野を伸ばしつつ、4つの観点がバランスよく備わった生徒を目指します。

○リスニングや話を聞き取る能力を伸ばしつつ、書く力を強化し、4つの観点がバランスよく使える生徒を目指します。

○普段の活動から、3年間の集大成として、英語の4観点をバランスよく使える生徒を目指します。

## そのための手だて・授業の改善

◇書く力を養うために、小テスト等を行います。  
◇話すための原稿作り、ペアワークやインタビュー活動で聞いたことをまとめて文章にするなど、文法事項の学習など、全ての活動から書く活動につなげていきます。  
◇皆が書いた英文を掲示するなどし、多くの英文を読む機会を増やしていきます。

◇ペアワークによる教科書本文の音読、暗記を続け、英語の基礎基本を定着させます。  
◇ビンゴ、小テスト等を行い、定期的を書く習慣をつけていきます。  
◇スピーキングチェック等を行い、学習した文法を使って英語で自己表現する力を伸ばしていきます。  
◇様々な活動から書く活動へつなげていきます。

◇ビンゴ、ディクテーションなどの活動から語彙を増やしたり、聞く力と書く力をつけていきます。  
◇ALTの授業やペアワーク活動を通して、話す力と書く力をつけていきます。  
◇今までに習った表現を用いて、与えられたテーマで書く力をつけていきます。  
◇指示語の内容を確認しながら読む力をつけていきます。

# 音楽科

1年

2年

3年

生徒の取り組みの特性や変容

◇強み  
興味・関心は高く、歌唱は明るく意欲的に取り組もうとする生徒が多い。  
◇弱み  
音楽用語や音符の長さなど基本的な内容が理解できていない生徒が多い。

◇強み  
関心・意欲は高く、歌唱表現は明るく主体的に取り組む生徒が多い。  
◇弱み  
鑑賞では、目標に沿って、ことばでまとめることがうまくできない生徒が多い。

◇強み  
興味・関心は高く、明るく積極的に取り組み生徒が多い。  
◇弱み  
写譜は得意だが、音符の長さやリズムなど、基本的なことを理解できていない生徒がいる。

指導上の課題

◇歌唱は、楽曲について考えさせたり、話し合い等、イメージを持たせ、表現につなげる。  
◇基本的な音楽用語は授業内で繰り返し、覚える指導を工夫する。

◇歌唱は、楽曲について考えさせたり、話し合い等で、イメージを持たせ、表現につなげる。  
◇鑑賞は、語彙力を引き出す工夫をする。

◇歌唱は、歌詞を理解させ、楽曲について考えを深めて表現の工夫しながら取り組む。  
◇鑑賞は、感じたことを文字で表せるよう語彙力を増やせる指導を工夫する。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

◇音楽を通じ、美しい音を聴いて感想をどのようにことばで表現するのか、語彙力を伸ばしていきたい。

◇音楽を通じ、美しい音に感動したり、語彙力を増やし、まとめる力をつけたい。

◇音楽を通じ、美しい音を表現するための工夫や雰囲気を感じ、創意工夫できる生徒の育成。

## そのための手だて・授業の改善

◇歌唱・器楽は、目標を理解して、自らの考えを表現する力を支援します。  
◇鑑賞は、目標を明確にし、キーワードを提示し、具体的な語彙で感想をまとめる力を指導します。  
◇基本的な用語は、理解する為の教材を作成し、小テストを実施し、理解力を確認しながら授業を行います。

◇歌唱・器楽は、目標を理解し、自らを感受する力を深め、表現する力を支援します。  
◇鑑賞は、目標を明確にし、キーワードを提示し、感受した内容を表現する力を養うよう支援します。  
◇基本的な音楽用語を理解する為、教材を作成し小テストを実施し、理解力を確認しながら授業を行います。

◇歌唱・器楽は、目標を理解し、自らを感受する力を深め、表現する力を支援します。  
◇鑑賞は、様々な種類の音楽に触れ、雰囲気を感じながら、美しさを味わって聴けるよう支援します。  
◇基本的な用語や音楽用語をプリントを活用して理解できるよう工夫し、指導します。

# 美術科

1年

2年

3年

生徒の取り組みの特性や変容

◇入学した当初は落ち着きに欠け、話をきちんと聞けない場面も見られたが、徐々に集中して制作できるようになってきた。レタリングやポスターカラーによる彩色など、多くの生徒が初めて行う内容に新鮮な気持ちで取り組むことができた。1つ1つの作品を丁寧に制作し、技量を高めていくよう促した。

◇全体的に落ち着いて制作に取り組むことができる良い雰囲気がある。木彫なべしきの制作では、図柄のアイデアに豊かな個性が見てとれる。技法を選択させたが、自ら完成のイメージを持って選ぶことは難しかったようであり、アドバイスが必要な場合が多く、また彫り進めることで立体感が増していくが、途中で妥協する生徒も見られた。

◇昨年度より学級数が増え、クラスの人数が少なくなったこともあり、意欲的に制作に取り組む生徒が多くなった。1, 2年で行った彫刻技法の基礎を生かし、立体感と重なりを表現するよう、努力する姿勢が見られた。条件の中で図柄を考えたが、完成のイメージをなかなか持てない生徒もいた。

指導上の課題

◇制作の手順やコツを頭で理解できても、それが実技に結び付きにくい現状がある。うまくいったという実体験を積ませることが必要である。

◇想像力を働かせ、段階的な制作の手順や完成作品のイメージをもたせることが、より工夫された作品作りにつながるだろう。

「透かし彫り」で、背景を切りぬくための穴を開ける作業に予想より時間がかかり、全体的に彫刻にかかる時間が少なくなってしまったのが課題である。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

◆集中して作業に取り組む、より良い作品作りができる環境をつくる。基礎知識や技能を習得させ、自分の思いを表現した作品を完成することができることを目指します。

◆知識や技法を理解し、それを作品制作に生かす。よりよい表現をするために、自ら工夫する姿勢をもつことを目指します。

◆見通しをもって粘り強く制作し、作品の完成を目指す。自らが表現したい思いを、形や色を用いて、工夫して表現できるようにします。

## そのための手だて・授業の改善

◆制作に必要な基礎的技術や知識を重点的に指導し、理解を深めさせます。  
◆ねらいや目標をはっきりさせ、作品を丁寧に作らせていくことで、技術を高めます。  
◆校内展示を行い、達成感や充実感を味わわせます。

◆適切な量とタイミングで、参考資料や作品を提示し、具体的なイメージを作りやすいような授業構成をします。  
◆落ち着いた雰囲気を継続させ、集中して根気強く作業させ、完成の喜びを味わわせます。

◆わかりやすい説明と助言を心がけ、制作時間を十分取るようにします。  
◆興味関心を喚起するような導入方法や制作の進め方を工夫し、集中を持続させて最後まで完成させるようにします。

# 保健体育科男子

1年

2年

3年

生徒の取り組みの特性や変容

◇強み  
明るく素直な生徒が多く、指示されたことをしっかりと行うことができる。互いに声をかけ合い、協力して運動することができる。  
◇弱み  
運動特性の理解が低く、考えたり工夫したりして技能を高めることができていない。  
新体力テストの結果から体力的に高くないといえる。

◇強み  
明るく活発で体を動かすことへの欲求が強く、積極的な取り組みの見られる生徒が多い。リーダーシップをとれる生徒が積極的に声をかけている。  
◇弱み  
特性を理解し、ポイントをとらえた運動を目標としている生徒が少ない。ペアやグループでの取り組みでの思考力や判断力に欠ける。  
新体力テストの結果から体力的に高くないといえる。

◇強み  
運動に対する興味や関心の高い生徒が多く、主体的な活動が見られる。初めて行うことにも積極的な取り組みがあり、「できる」ことに喜びを感じ、さらに上達を目指すことができている。体力向上が見られる生徒が多い。  
◇弱み  
自己の課題を客観的にとらえ、課題解決の方法を探る力が低い。他の生徒の動きを見て、自分の運動に生かす力に欠ける。

指導上の課題

◇運動の理解と課題可決能力の育成  
◇運動技能が低い生徒に対する指導の工夫  
◇体力向上に向けた継続的な取り組み

◇運動の理解と課題解決能力の育成  
◇集団を意識した取り組み  
◇運動技能が低い生徒に対する指導の工夫  
◇体力向上に向けた継続的な取り組み

◇運動の理解と課題可決能力の育成  
◇運動技能が低い生徒に対する指導の工夫  
◇体力向上に向けた継続的な取り組み

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

◇運動の特性やポイントを理解して取り組む生徒を目指します。  
◇自己の目標を設定し、考えながら技能の向上につなげる生徒を目指します。  
◇体づくり運動などを通じて積極的に体力を高めようとする生徒を目指します。

◇運動の特性やポイントを理解して取り組む生徒を目指します。  
◇自己の目標を設定し、考えながら技能の向上につなげる生徒を目指します。  
◇集団を意識しながら協力して運動のできる生徒を目指します。  
◇体づくり運動などを通じて積極的に体力を高めようとする生徒を目指します。

◇運動の特性やポイントを理解して取り組む生徒を目指します。  
◇自己の目標を設定し、考えながら技能の向上につなげる生徒を目指します。  
◇生活習慣を見直し、運動を習慣化して健康の保持増進と体力向上に努める生徒を目指します。

## そのための手だて・授業の改善

◇授業のポイントをわかりやすく明確に説明し、技能の向上に対する意識を高めます。  
◇授業のふり返りから次への目標を持たせるとともに、思考力・判断力を高めていきます。  
◇新体力テストの結果を参考に体力についての目標を持たせ、日常的な運動習慣も含めた主体的な活動につなげていきます。

◇運動の特性や技能のポイントをホワイトボードや図を利用して、視覚的に理解できるようにしていきます。  
◇学習カードを活用して授業をふり返らせ、自己の課題と向き合う力を高めていきます。  
◇体力目標を持たせ、運動習慣も含めた主体的な活動につなげていきます。

◇運動の特性や技能のポイントをホワイトボードや図を利用して、視覚的に理解できるようにしていきます。  
◇他の生徒の動きを参考にして、自分の運動に生かす機会を作っていきます。  
◇1時間の授業の目標を明確にして、達成度を自己評価できるようにしていきます。



# 保健体育科女子

1年

2年

3年

生徒の取り組みの特性や変容

◇強み  
明るく素直で元気がある。積極的な取り組みが見られ、運動を楽しむことができる。  
◇弱み  
運動の特性や仕組みについての理解が不足しているため、考えたり工夫して技能を高めることができていない。

◇強み  
明るく素直で何事も一生懸命に取り組む指示されたことはしっかりと行うことができる生徒が多い。  
◇弱み  
昨年よりは、運動特性の理解が出来てきたが、いまだに指示待ちのことが多く、自ら積極的に創意工夫して運動を行うことが出来ない生徒が多い。

◇強み  
明るく素直な生徒が多く、運動を一生懸命に取り組むことができる。学習の積み重ねにより、自分たちで協力しながら運動を進めることができてきた。  
◇弱み  
運動技能や体力に自信がない生徒がいる。

指導上の課題

◇運動の特性や仕組みがわかる授業の工夫・改善  
◇運動技能や体力の向上が自覚できる内容の工夫

◇説明の仕方および授業内容の工夫、改善  
◇リーダーシップを取る生徒の育成と協力体制の構築

◇楽しく行えて、運動量の多い授業内容の工夫  
◇運動技能や体力の向上が自覚できる内容の工夫

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

◇説明を正確に聞き取り、自ら判断し、技能を高めるために創意工夫できる生徒を目指します。  
◇運動を続けることにより、技能や体力が向上したことを体得し、自信が持てる生徒を目指します。

◇説明を正確に聞き取り、自ら判断し、技能を高めるために創意工夫できる生徒を目指します。  
◇運動の場面を通して、自己の役割を理解し、その活動の中でリーダーシップが発揮できる生徒を目指します。

◇運動の場面では、自分の力を最大限に発揮できる生徒を目指します。  
◇集団での活動の中で、自分の役割を知り、自他共に能力を最大限発揮できる生徒を目指します。

## そのための手だて・授業の改善

◇内容の説明方法を工夫し練習の意図を理解させます。  
◇学習カードを利用し、個人の技能の到達度を把握させ向上心を持たせます。  
◇さまざまな種類の運動群を取り入れ、体力や運動技能の向上を図ります。

◇さまざまな種類の運動群を取り入れ、相互に協力して練習できる内容を工夫します。  
◇学習カードの内容を工夫し、相互に助言する機会を増やし、チームワークを高め、技能の向上を目指します。

◇さまざまな種類の運動群を取り入れ、体力や運動技能の向上を図ります。  
◇学習カードの内容を工夫し、技能の到達度を把握させながら、相互に助言や話し合う機会を増やし、集団の質を向上させます。

# 技術科

1年

2年

3年

生徒の取り組みの特性や変容

◇強み  
興味を持っていろいろな考え方ができる。発表に意欲的に取り組む姿勢が見られる。  
◇弱み  
関心が他の方向に向かい、授業に集中ができない生徒も見られる。体験学習での知識が身に付いていない生徒も見られる。

◇強み  
ものづくりでは、興味・関心は高く、意欲を持って取り組む姿勢が見られる。  
◇弱み  
自分の技能の見極めと構想し工夫する力が伴わないので、作品を創意工夫するまで至らない。

◇強み  
基本的な知識を持っていて、意欲を持って取り組む姿勢が見られる。  
◇弱み  
安易に答えを求める生徒が見られ、他の生徒の考え方を模倣し自分で論理的に思考・探求するまで至らない。生活体験と学習のつながりを意識していない。

指導上の課題

授業の目標を明確にして学習を組み立てて、より良いものを作ろうとする意識を高める。体験的学習が不足していて、基礎技術と観察力を定着させることが必要である。

完成までの工程内容と工具の利用方法を理解しておらず、他に聞いて活動しているので、工程を理解させ作品の創意工夫と完成度の向上を目指すことが必要である。

より深く理解し、工夫を求める指導が必要である。  
実習の結果を早く求め、理論や考察が丁寧に出ていない場合がある。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

基礎知識と基礎技能を定着させ、体験的な学習から何事にも丁寧に取り組むことにより作品完成の喜びを感じる生徒を目指します。

作業の安全に注意し、計画と見通しを持って製作に取り組む生徒を目指します。基礎的技術を習得し作品を工夫する生徒を目指します。

実習などにのぞむにあたり、自分の生活と学習を関連付けて学習できる生徒を目指します。「なぜ」、「どうして」などの疑問を持ち論理的に探求する生徒を目指します。

## そのための手だて・授業の改善

作品製作に必要な基礎知識や技術をしっかりと指導して、理解を深めさせます。  
製作の手順や工具の適切な利用方法習得の時間を多く確保し技能と完成度を高めます。

工夫された製作見本や行程ごとの見本等を利用して生徒自身が見通しを持って取り組めるよう丁寧な指導をします。  
工具などの利用についてはわかりやすく、正しい使用方法を例示するとともに細かく注意をし安全な使用に注意します。

生活体験と学習を関連付ける題材を提示して、理解向上する授業に取り組みます。  
論理的な学習も充実させ、達成感や充実感が得られるようにします。

# 家庭科

1年

2年

3年

生徒の取り組みの特性や変容

- ・授業に関心、意欲のある生徒は多いが、自ら問題解決する能力が不足している生徒もいる。
- ・提出物が出せない生徒、授業中に私語の多い生徒は慢性化している。
- ・実技面で大変意欲的でやり遂げようとする生徒が多い。

- ・大変意欲的に取り組む傾向にあるが、実際の生活の中で学んだことを生かすことができる生徒はあまり多くない。

- ・しっかり集中して授業に取り組む生徒と、集中力に欠けて授業に参加する意欲の感じられない生徒の差が激しい。
- ・忘れ物をする生徒、提出物が出せない生徒、授業中私語の多い生徒は慢性化しており、他の生徒に影響が及ぶ事がある。

指導上の課題

- ・実習授業(作品の製作)の指導内容をよりわかりやすくし、個別に指導するというような工夫が求められる。

- ・授業の規律の徹底と自分の将来に目を向け考えられる力を養うことが必要である。
- ・作業を豊富に取り入れた内容にするよう工夫することが求められる。

- ・授業の規律の徹底と生徒自身が自分の将来に目を向け考えられる力を養うことが必要である。

## 上記の成果と課題から考察した、今年度内に目指す生徒像

- ・課題に対して、自らきちんと考え実践できる生徒を目指します。
- ・学習したことを実際の生活の中で自発的に生かし、工夫ができる生徒を目指します。

- ・課題に対して自らきちんと考え実践できる生徒を目指します。

- ・自分の置かれた状況をしっかり考え、協力し合える生徒を目指します。

## そのための手だて・授業の改善

- ・実技時間を増やし、作品を作り上げる楽しさ、喜びを分かち合い、その技術を生活に活かす工夫を行います。
- ・衣生活や住まいに関する情報や知識を実生活にリンクさせて、学習意欲を高める工夫を行います。

- ・事例を豊富に取り入れて、興味を持ちやすく理解しやすい授業になるように努める。
- ・1回の授業の中で講義と作業といったような、集中力を養える構成となるように工夫します。

- ・事例や経験談、また、実習や作業を豊富に取り入れ、興味関心を高める工夫を行います。
- ・将来の自立に向けた生活に関する基礎知識を深める工夫を行います。